



感染症の流行パターンに大きな変化！

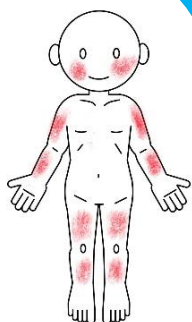
”暑さ寒さも彼岸まで”とはよく言ったもので、お彼岸を境に朝方の気温が下がり肌寒さを感じるようになりました。

9月に入りRSV感染症が増えています。**コロナ禍のなかで規制が解除されてから、RSV感染症などさまざまな感染症がこれまでとは異なる流行パターンをとるようになってきました。**RSV感染症は本来は秋から冬に流行していましたが、コロナ禍以降は春から夏に流行のピークを迎える疾患に変わってきました。その理由として近年の夏の酷暑の影響で窓を締め切ってクーラーのきいた部屋で過ごすため感染が広がるのではないかとこの意見があります。

生活環境の変化のせいか、多くの感染症の季節的な流行パターンがこれまでと変わってきています。これからは日頃からの基本的な感染対策がより大切になってきていると感じます。

りんご病

9月は幼児を中心にりんご病が流行しました。**りんご病の正式名称は「伝染性紅斑」と呼ばれます。**ヒトパルボウイルスB19の飛沫感染で顔面や四肢に発疹がでる流行性の疾患です。



ウイルスの感染後**10～20日**に特徴的な発疹が出現しますが、発疹が出現する頃には周囲への感染の危険性はなくなります。発疹が出た時点で登園や登校を控える必要はありません。ただし、**妊婦さんは感染すると流産や死産のリスクがあるので、流行時期は外出時にマスクを着用するようにしてください。**



9月の感染症情報

9月はRSV感染症、伝染性紅斑（りんご病）、新型コロナウイルス感染症が流行しました。それぞれ定点あたり1週間に10人程度の発生でした。

インフルエンザは散発的な発生に留まっています。



9月の利用状況

9月の利用延べ人数は72人、1日平均利用人数は3.6人でした。年齢別では、1歳児が18人で最も多く、次いで3歳児15人、4歳児12人の順でした。疾患別では急性上気道炎が50人で最も多く、ほとんどが一過性に発熱がでる普通感冒で、次いで、RSウイルス感染症でした。

9月下旬から寒暖差が大きくなり、気管支喘息や普通感冒（発熱と鼻水）のお子さんが増えています。この時期は自律神経のバランスを崩しやすい時期です。体調管理にご留意ください。